

校長室より

2021. 9.17 (金)



みさごたより

文責：永野

薩摩川内市立里小学校 里幼稚園

Espressivo Part 9

No.10



「うさぎうさぎ なにみてはねる？」

仲秋の名月に寄せて

* 今日の便りは、もともと里幼稚園の園便りとして、幼稚園に新たにやってきたうさぎにちなんで書いた原稿なのですが、園便りの枠にまったく収まりませんでした…。そこで「みさごたより」として収録します。保護者向けの文章なので、ふりがな少なめですが、おもしろいと思うので小学生はお家の方と読んでくださいね。

新学期から里幼稚園に仲間入りしたうさぎさん、名前が  チョコと  キャンデーに決まったそうで、なによりです。今日は、そのうさぎにちなんだ話をしてみます。

もんぶしょうしょうか

上の歌詞でおなじみの文部省唱歌「うさぎ」は、最も古い唱歌集に収められていて、江戸時代から歌われていたそうです。「十五夜お月さん見てはながあ〜あねさかずきるみなもるうつ」そう、9月と言えば十五夜、今年ふぜいは9月21日だそうです。直接月を眺めるもよし、盃や水面に映る月を眺めるのも風情があっふぜいていいですね。そこで、子供に話してあげたいお話に、「月に昇ったうさぎ」という話があります。ご存じでしょうか？

「あるとき、 サルと  キツネと  ウサギの3匹は、お腹をすかせているおじいさんと出会いました。サルは果物を、キツネは魚を取ってきておじいさんにあげたのですが、ウサギは何も取ることができませんでした…。心優しいウサギは『私を食べてください』

と言って自ら  火の中に飛び込んだのでした。

実は神様だったおじいさんは、この優しいウサギをウサギが大好きだった月に住まわせ、いつまでも幸せに暮らせるようにしました。ウサギが餅もちをついているのは、食べ物に困らないようにするためだそうですよ。」

もともとインドで話されていたお話ですが、平安時代以前に日本に伝わり、日本ではお月さまとウサギは切っても切れない関係として広く知られるようになりました。

(裏面へつづく)

十五夜は、秋の収穫などに感謝する行事で、各地でこの里でも毎年行われていましたが、残念ながらコロナの影響で今年も中止となってしまいました。



ほうのう
すもうが奉納されます。



お月見では、月見団子に添えてススキが飾られますね。



ススキは神様が降りてくる

場所（依り代）であり、魔除けの意味も持っています。ところでこのススキは、現在外来種と激しい勢力争いをしていることをご存じでしょうか？ ススキが戦っているのは、戦後、米国から入ってきて日本の在来種をことごとく駆逐した **セイタカアワダチソウ** です。➡

幸いこの甌島では姿を見ない気がします。この植物は、根から毒を出し他の植物を枯れさせていきます。そのため、ススキは攻め込まれ太刀打ちできないとされていました。ところが、勢力を拡大しすぎたセイタカアワダチソウは自らの毒で自分もやられるようになってきました。そしてその毒に対して、ススキは徐々



に耐性を持つようになり、その勢力は拮抗するようになっているのです。植物世界の生存競争も、私たちが思っているより、ずっと激しいものなのかもしれません。



新型コロナの影響で、県独自の警戒宣言も今月末まで延長され、思うように外出できない日が続きますが、日頃見慣れているものでも、見る角度を変えてみるといろいろな世界が広がっていきます。コロナ禍であっても、私たちは日常生活を工夫し、豊かな時間を過ごしていきましょう。

【お知らせ】

長く工事中で、動いていなかった里小学校ホームページですが、夏休み中に改修が終わり現在テスト運用中です。

学校ホームページには、学校便り、みさごたよりともPDFファイルで入れてありますので、ご自宅のPCでカラー印刷したり、閲覧することが可能となりました。（この便りは、校長たより>2学期>9月③に入っています）

また、スマホやタブレットでも閲覧可能です。合わせて、日々の子供たちの姿は、「楽しい里小学校 里幼稚園」とう、学校ホームページに貼り付けてあるブログより見ることが可能となりました。右のQRコードから直接ブログに入ることも可能です。是非、お立ち寄りください。

